イノベーショントラック

IV-1　9/4 13:10
プロジェクトマネジメントとナレッジマネジメント
融合を目指して

北陸先端科学技術大学院大学　知識科学研究科
教授　梅本　勝博

【セッション概要】　90年代半ば以降、世界中でナレッジマネジメントが大企業を中心に普及してきた。そのナレッジマネジメント運動のきっかけになったのは、野中郁次郎・竹内弘高の　The Knowledge-Creating Company（邦訳『知識創造企業』）であり、その中の事例はほとんどが製品開発のプロジェクトである。また、ナレッジマネジメントを実践している企業の多くがプロジェクト・ベースの組織である。本セッションでは、ナレッジマネジメントとプロジェクトマネジメントの関係について論じ、両者の融合について展望する。

【講演者略歴】1975年九州大学経済学部卒業。一橋大学助手を経て、1997年ジョージ・ワシントン大学文理学部大学院で公共政策論のPh.D.取得。現在、北陸先端科学技術大学院大学・知識科学研究科教授。専門はナレッジ・マネジメント、公共政策論。

IV-2　9/4 14:15
成功事例、反省事例に学ぶ プロジェクトマネジメント

新エネルギー・産業技術総合開発機構 新エネルギー技術開発部
主任研究員　弓取　修二

【セッション概要】　NEDO技術開発機構は、1980年の発足以来、エネルギー・環境技術、産業技術の分野で多くの研究開発プロジェクトを実施してきた。プロジェクトでは、より望ましい成果を得るための効率的・効果的なマネジメントが求められるが、プロジェクト自体の目的や性質が異なる上、産学官の連携の下、様々な立場の人が参加する状況ではなかなか容易ではない。ここでは、平成15年度から開始された追跡調査結果等を基に、成功事例や反省事例に学び、プロジェクトマネジメントに関する共通認識を整理し、共有する試みについて概説する。

【講演者略歴】2001年NEDO技術開発機構入構。企画調整部、環境調和型技術開発室、研究評価部の業務に従事。2006年より新エネルギー技術開発部の他、燃料電池・水素技術開発部、機械システム技術開発部、研究開発推進部を兼務し、蓄電池技術開発及び新エネルギーベンチャー技術革新事業を担当。

IV-3　9/4 15:35
デジタル技術が製造業の技術マネージメントを変える
薄型デジタルテレビの事例

日本ビクター株式会社
顧問　山口　南海夫

【セッション概要】　現在私達の周りで最もホットな話題のひとつが薄型デジタルテレビである。テレビは長い歴史をかけて今日の姿にまで発展してきた。それが今、デジタル技術と薄型ディスプレーデバイスが組み合わされた全く新しい世界に突入した。その変化は全世界同時に進行し、業界地図が大きく塗りか変えられようとしている。また、技術マネジメントにも大きな変化が起きている。デジタル技術の広がりによりほかの分野でも類似した変化が起こる可能性がある。本講演では薄型デジタルテレビがもたらす変化と、大きく変わってきた技術マネジメントの変化について解説する。

【講演者略歴】1969年松下電器産業(株)入社、以来カラーテレビの開発設計を中心に映像機器開発を担当。その後システムLSI開発センター所長として半導体開発、松下情報システム(株)社長としてソフト開発を担当。2001年日本ビクターに移籍。専務取締役兼技術開発本部長として技術経営を担当。2007年退任し現在顧問

IV-4　9/4 16:40
リスクマネジメントと組織学習によりプロジェクトを成功に導く
失敗しながら学ぶプロジェクトマネジメント

株式会社ニルソフトウェア
シニアコンサルタント　河合　一夫　CPP

【セッション概要】　不確実性が高まる中でプロジェクトを成功させるためには、組織がプロジェクトのQCDに影響を与える変化を察知し素早く対応することが重要となる。プロジェクトの失敗の原因として、意思決定の遅さ、リスクへのまずい対応などがあげられる。プロジェクトを実施する中で組織が学び、成長することが大切である。本講演では、リスクマネジメント、意思決定マネジメント、組織学習の3つのプロセスをプロジェクトマネジメントにおける基本的なマネジメントとして、相互に効果的に関連したマネジメント手法を紹介する。

【講演者略歴】株式会社ニルソフトウェア、シニアコンサルタント、PMI® PMP®
航空宇宙関連のソフトウェア開発を経た後、現職にてさまざまな業種のソフトウェア開発のプロジェクトマネジメントを支援しながらPMツールの開発を行い、現在に至る。PMAJ、IEEE、PMI®、PM学会、電子情報通信学会、品質管理学会等所属

製造・サービストラック

MS-1　9/4 13:10
PM実戦力養成法
プロジェクト事例研修の進化への取り組み

富士通株式会社　PMプロフェッショナル推進室
木野　高史　CPP

【セッション概要】　PMの実戦力は進行中のプロジェクトにおけるリスクや隠れた問題を察知し対症療法的処置にとどまらず、問題を根本的に解決する行動能力である。この能力は従来型のPM教育だけでは身につくものではない。
我々はこの点についてPM育成方法の見直しを図りこれまでの一般的なケーススタディの研修スタイルから、より一歩深めた事例研修のスタイルを育成体系とともに確立した。そしてこれをPM候補生の育成に用い大きな成果を得た。事例研修のひとつの型としても適用可能な本研修手法を我々の研修事例と共にご紹介する。

【講演者略歴】1974年に富士通株式会社入社。ベーシックソフト開発を経て、2000年までキャリア系ネットワークシステムの開発に従事。SIアシュアランス本部にてプロフェッショナル制度の整備・普及やPM育成に携わる。2006年同本部PMプロフェッショナル推進室に。　PMAJ会員、IT-SIGメンバ、PMP®、PMS

MS-2　9/4 14:15
フリーランスデザインオフィスGKとヤマハ発動機におけるPM
感性とダイナミズムに基づいたデザインプロジェクト事例

株式会社 GKダイナミックス
常務取締役　一条　厚

【セッション概要】　製造業におけるデザインの役割。工業デザイン領域でアイデンティティを生み出すエンジンは、オリジンと創造性にある。企業のグローバル展開や効率化の追求と共に、クリエイティビティの達成にはフリーランスの提案力とその具現化が寄与している。外部デザイン組織と企業との世界でも稀有な50余年の相互尊重と独立性により、クリエイティブマネージメントの実現をめざしている。感性のデザインマネージメントによる、こだわりのカスタマーに応える、こだわりの美と技術の結晶のモノづくりを紐解いてみる。

【講演者略歴】1978年東京芸術大学工芸科大学院修士課程終了。同年ＧＫインダストリアルデザイン研究所入社。1981年ＵＳロスアンジェルスに出向。1983年より（株）ＧＫダイナミックスにて、トランスポーテーションを中心にさまざまな分野のデザインを手がける。

MS-3　9/4 15:35
中小企業における独自商品の事業開発におけるPM事例
PMアプローチで新規事業を市場展開

株式会社フュージョンナレッジネットワーク
代表取締役　小泉　誠二

【セッション概要】　中小製造業において独自商品を開発し市場で成功することは経営者の永年の目標である。
しかしながらそれを成功させるには、商品の技術開発だけではなく、組織やノウハウの蓄積、パートナー開発など様々な障害を抱えているため、全社をあげて不退転の強力な意志で取り組まなければならない。
本セッションでは下請けであった企業が独自ブランドの商品を市場で展開するために、プロジェクトマネジメントのフレームワークを使い、新たに市場に打って出た経営革新の事例を紹介する。

【講演者略歴】1973年横河ヒューレット・パッカード(株)入社、電子計測部門の営業やSEマネージャに従事。2002年(株)フュージョンナレッジネットワークを設立、経営・技術コンサルタントとして中小・ベンチャー企業支援を行っている。中小企業診断士、ITコーディネータ、技術士(電気電子部門)

MS-4　9/4 16:40
災害復旧システムプロジェクト
設計から構築・運用の作業プロセス

アトスオリジン株式会社　営業マーケティング本部
セールスマネージャー　百瀬　敏彦

【セッション概要】　BCP：事業継続計画の一部であるDR：災害復旧システムの事例である。本プロジェクトは、外資系金融機関に於ける発生可能性の高いビジネス拠点の災害を想定したDRシステムで、海外システムを含むDRシステムのデザインから構築、運用までの一連のプロセスを含め、プロジェクト管理、体制、文書体系、お客様とコミュニケーションや運用からテストまでについて具体的に紹介し説明する。サーポート・サービス・システム事例として、規模に関わらずDRプロジェクトを検討する際の考え方の参考として応用することができる。

【講演者略歴】1976年横河ヒューレット・パッカード入社、SE部門、教育事業およびアウトソーシング部門のビジネスマネージャー。2000年問題（Y2K）のHPの日本代表。他社のISO9001/ISMS/個人情報保護システムを構築。2006年アトスオリジンに入社しITプロジェクトのPMとして企画と実務を担当。

金融トラック

FI-1　9/4 13:10
イノベーションを具現化するプロジェクトマネジメント
ソニー銀行らしさの追求

ソニー銀行株式会社　営業企画部
マーケティング・オフィサー　河原塚　徹

【セッション概要】　2001年の開業以来「自立した個人のための資産運用銀行」を追求するソニー銀行は、2008年3月26日から、お客さまの日々の生活と金融商品を近づけるツールとして、ライフイベントサポーター『人生通帳』の提供を開始した。
同サービスは、“アグリゲーション”の概念を、顧客リサーチで判明したお金に関する課題解決のソリューションとして採用・発展し、新世代の資産運用ツールに仕上げたものである。
同サービスを事例にあげ、お客さまのニーズに即した企画・開発のノウハウについてその一端を述べたい。

【講演者略歴】1993年 早稲田大学第一文学部卒業。国内金融情報ベンダーで金融法人向けの営業・マーケティングを担当。2002年 ソニー銀行株式会社入社。外貨関連商品、金融情報ツール、電子マネー、モバイルなどのプロジェクトを担当。2007年10月から現職。

FI-2　9/4 14:15
金融機関におけるシステムリスク管理と プロジェクトマネジメント

金融庁　監督局　銀行第一課
課長補佐　池田　宜睦　（変更になる場合がございます）

【セッション概要】　現在の金融機関は、多くのシステムを抱え、最早システム産業となっている。それに伴い、システムリスクが、経営に重大な影響を及ぼしている。金融庁は、金融機関が適切にシステムリスクを管理するべく、検査マニュアルや監督指針において、その管理態勢のあり方を示している。
今回のセッションでは、「主要行等向けの総合的な監督指針」において、プロジェクトマネジメントの重要性について触れている部分を中心に、金融庁のシステムリスク管理についての考え方を同指針に沿って説明する。

【講演者略歴】1996年一橋大学法学部卒。1999年東京大学大学院法学政治学研究科修了、金融監督庁（当時）入庁。証券取引等監視委員会事務局総務検査課、検査局総務課、監督局総務課、財務省近畿財務局理財部を経て、2006年7月金融庁総務企画局総務課課長補佐兼政策課。2007年7月から現職。

FI-3　9/4 15:35
金融システムに関わる、PMOの設置と 品質管理活動のポイント

株式会社日立製作所　情報・通信グループ　品質保証本部
金融システム品質保証部　担当部長　大石　晃裕

【セッション概要】　金融庁の金融検査マニュアルは、経営陣によるシステムリスク管理態勢の整備に係るPDCAサイクルの構築として、「システムリスク管理部門」の設置を挙げ、その役割と責任は、「システムリスクの認識・評価、モニタリングおよび検証・見直し」であるとしている。
金融機関から情報システムの開発・運用を委託されるベンダーとしてPMO（プロジェクトマネジメント・オフィス）の設置のあり方と、「プロジェクトのモニタリング」「本番障害のPDCAサイクル」など品質管理活動のポイントについて解説する。

【講演者略歴】1987年（株）日立製作所入社。銀行の勘定系オンラインシステムの検査を担当。その後、種々の銀行システムの品質保証業務に従事。
2005年金融システム品質保証部　担当部長。銀行系システムの品質保証業務に従事。現在に至る。